

# 平成22年度事業報告書

|    |                              |    |
|----|------------------------------|----|
| I  | 事業の実施概要                      | 1  |
|    | (1) 助成・援助事業                  | 1  |
|    | (2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～ | 3  |
|    | (3) 国際交流活動                   | 4  |
|    | (4) 制作者フォーラムの開催等             | 4  |
|    | (5) 定期刊行物の刊行等                | 6  |
|    | (6) ホームページの運営                | 6  |
|    | (7) 個人情報保護                   | 6  |
|    | (8) 資産運用検討委員会                | 7  |
|    | (9) 新公益法人移行                  | 7  |
| II | 処務の概要                        | 9  |
|    | (1) 役員、評議員等に関する事項            | 9  |
|    | (2) 理事会および評議員会に関する事項         | 11 |

## 平成２２年度事業報告書

### I 事業の実施概要

平成２３年７月の地上波完全デジタル化を目前にして「放送と通信との連携」による新しい放送サービスの進展など、デジタル放送時代を確実に迎えようとするなかで、放送文化基金は、放送に関する調査研究等に対する助成・援助事業や優れた番組に対する表彰事業、番組制作者の人材育成を支援する事業など、放送文化の発展に寄与する諸活動を重点的、効果的に推進した。

一方、財政の面では、国内経済の長引く不況とデフレ状況が続くなかで、ギリシャ経済の破綻などの影響を受け、超低金利の継続と円高の一層の進行により、資産運用収入は前年度実績を大きく下回った。

そのため、事業運営にあたっては、事業の効率的実施、人件費の抑制、管理間接部門の節減等に努め、赤字決算の縮小に努めた。

また、公益法人改革の関連では、平成２２年１２月公益財団法人への移行認可申請を行い、平成２３年３月２５日認可を受け、４月１日登記を行った。

#### (１) 助成・援助事業

##### ア 平成２２年度助成・援助

平成２２年度助成・援助要項に基づき、技術開発、人文社会・文化の２分野を対象に公募を行い、助成・援助審査委員会での審査を経て、理事会で５０件５,５００万円の助成・援助を決定した。

申請および選定結果は、次の通りである。(単位 万円)

| 区 分     | 応 募 |        | 決 定 |       |
|---------|-----|--------|-----|-------|
|         | 件 数 | 金 額    | 件 数 | 金 額   |
| 技術開発    | 46  | 10,732 | 14  | 2,200 |
| 人文社会・文化 | 96  | 16,070 | 36  | 3,300 |
| 合 計     | 142 | 26,802 | 50  | 5,500 |

「技術開発」では、高精細、大画面、３Ｄ時代のテレビを対象に、それらが人間の生理や心理にどのような影響を与えるのか明らかにしようという心理

学、脳科学などの幅広い分野からの研究が多数採択された。

また、デバイス・材料の基礎的分野では、色情報と距離情報を同時に記録する MEMS 三次元カメラの研究が、「3Dテレビでより臨場感の高い立体映像提供のための、手のひら大の三次元カメラ試作」として、新規性が高いと評価された。

「人文社会・文化」では、デジタル化、放送史、番組の内容分析などの研究申請が少なくなったが、今まで以上に「放送の存立意義を様々な角度から研究」しようとする姿勢が広がってきている。その結果、講師、大学院生など若い研究者への少額助成も含めて、数多くの助成を実施することとなった。

助成・援助金贈呈式は、研究報告、目録贈呈、懇親会の3部構成で、平成23年3月4日に実施した。

#### イ 平成20年度助成・援助事業の実施報告

平成20年度助成・援助の対象とした事業からの実施結果報告について、「技術開発」、「人文社会・文化」の審査委員会で審査を行い、其々コメントと評価点を付けた。

平成20年度に助成・援助した事業は49件（うち海外3件）で、技術開発16件、人文社会・文化33件であった。

#### ウ 助成・援助「研究報告会」

平成20年度に助成した事業の人文社会・文化部門から『過去のテレビ番組と記憶の共有—超高齢化する山口県の島嶼地域での高齢男性を対象にしたフィールド調査から』国広 陽子（東京女子大学教授）、大坪 寛子（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員）と技術開発部門から『放送のカラーユニバーサルデザイン（CUD）化に資する色弱者の瞬間混同色差の研究』前川 満良（石川県工業試験場研究主幹）について、研究者による成果報告を、東京・紀尾井町の千代田放送会館（平成22年10月29日）で実施した。

参加者は、放送関係者、研究者など約70名で、報告後の質疑応答の時間には活発な意見交換が行われた。

主な意見は、「地域の高齢者間のコミュニケーションが活発になるような映像の活用法、アーカイブの整備などについてローカル放送局の取り組みが求められる」「認知症の改善につながるような映像の活用法について踏み込んで研究してほしい」など（以上、人文社会・文化部門）

「放送局の制作現場で直接生かせる示唆に富んだ内容」「ニュースなど緊急性の高い現場で、画像を作るときに色弱者がわかりにくい部分をリアルタ

イムで表示するソフトを提供してほしい」「災害時などの緊急報道の画像については、放送局間で連携してCUD化を促進し、基準作りを進めたい。放送文化基金も協力してほしい」など。（以上、技術開発部門）

また、今回初めての試みとして、助成・援助金贈呈式（平成23年3月4日）での研究報告会を行い、同じく20年度に助成した人文社会・文化部門から「アメリカの放送メディアにおける政治情報提供の変化と台頭するメディア監視団体」前嶋和弘（文教大学准教授）が報告を行った。

## （２）表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

### ア 第36回放送文化基金賞

第36回放送文化基金賞は、平成21年度中に放送された、優れた放送番組（番組部門）と、主にその期間に顕著な業績をあげた個人・グループ（個人・グループ部門）を対象に、合わせて30件を表彰した。

応募・推薦、表彰の状況は次のとおりである。

| 部 門       | 領 域           | 応募・推薦数 | 表彰数 | 備 考              |
|-----------|---------------|--------|-----|------------------|
| 番組部門      | テレビドキュメンタリー   | 79     | 5   | 本賞1、優秀賞1、番組賞3    |
|           | テレビドラマ        | 44     | 4   | 本賞1、優秀賞1、番組賞2    |
|           | テレビエンターテインメント | 58     | 4   | 本賞該当なし、優秀賞1、番組賞3 |
|           | ラジオ           | 31     | 4   | 本賞該当なし、優秀賞2、番組賞2 |
|           | 個別分野          | —      | 5   | 番組部門受賞作品から選定     |
| 個人・グループ部門 | 放送文化          | 17     | 4   | —                |
|           | 放送技術          | 10     | 4   | —                |
| 合 計       |               | 239    | 30  |                  |

番組部門の本賞の賞金は200万円、優秀賞は80万円、各番組賞は、50万円、個別分野賞は20万円。個人・グループ部門の賞金は50万円。

本賞を受賞したのは、テレビドキュメンタリー番組では、台風で気仙沼に避難してきた漁師たちの一日を丹念に描いた『ハイビジョンふるさと発 嵐の気仙沼 ～港町の特別な一日～』（NHK仙台放送局）、テレビドラマ番組では、『阪神・淡路大震災15年 特集ドラマ その街のこども』（NHK大阪放送局）、テレビエンターテインメント番組、ラジオ番組では、本賞該当なしとなった。個別分野では、ドラマ番組部門で本賞、優秀賞の2作品の脚本を

手掛けた渡辺あや氏が脚本賞を受賞した。

贈呈式は、7月1日に千代田放送会館で行い、受賞記念パーティーをルポール麹町で行った。

#### イ 他の賞への参加

アジア太平洋放送連合（ABU）番組コンクールと第37回日本賞教育コンテンツ国際コンクール（主催／NHK）に参加した。

ABU番組コンクールでは、ラジオとテレビのドラマ番組の最優秀作品『FMシアター「リバイバル」』（日本放送協会／日本）、『The Great Queen Seondeok（善徳女王）』（文化放送／MBC・韓国）にそれぞれ賞を贈呈した。

日本賞では、「企画部門」で最優秀企画に選ばれた『Breasts torturing 乳房の告発』（アフリカ・ジャパン・ハウス・センター(AJH)／カメルーン）に対して放送文化基金賞を贈呈した。

なお、第36回（平成21年）の日本賞「企画部門」で放送文化基金賞を受賞したスワジランドテレビ（スワジランド）の『ねえ、知ってる？（What's the buzz?）』は番組として完成し、今回の日本賞コンクール開催期間中に上映会が行われた。

### （3）国際交流活動

#### ○ABU（アジア太平洋放送連合）総会および番組委員会

ABUの第47回東京総会が、10月15日から20日まで、41の国と地域から放送機関の代表らおよそ400人が参加して開かれた。

総会に先立って開かれた番組委員会には谷村専務理事が出席し、「これからもABUのプロジェクトへの助成・援助と番組コンクールのスポンサーとして協力して行きたい」と挨拶した。また助成対象については、「ABUのメンバーが共通のテーマで番組を共同制作し、放送するような新たなプロジェクトの立ち上げやこれまでの世界電波会議に向けた研修プロジェクトをアジア電波研究会議に発展させるよう」要望した。

今回の総会では、「放送のちから」をテーマに、インターネットの急成長やデジタル化の進展など、放送を取り巻く環境が大きく変化する中で、どのように放送の役割を果たして行くかについて議論された。「放送とインターネットの融合」をめぐるパネルディスカッションでは、アジアをはじめ欧米も含めた各国放送局の新たなメディアへの取り組みが紹介された。

### （4）制作者フォーラムの開催等

#### ア 制作者フォーラム

NHK、民放、制作プロダクションなど、組織の枠を超えた制作者同士の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的として、平成22年度は4地区で現地実行委員会と共催開催した。

内容は、ミニ番組コンテストと実行委員会の企画による講演会等が中心となった。

○北日本制作者フォーラム in こおりやま（北海道・東北地区）

＜北海道、東北の民放とNHK、計40局＞

日 時 平成22年10月8日（金）

場 所 視聴覚ホール／郡山市

参加者 約40名

○北信越制作者フォーラム in にいがた（北陸・長野、新潟地区）

＜北陸3県、長野、新潟の民放とNHK、計28局＞

日 時 平成22年11月6日（土）、7日（日）

場 所 ホテルイタリア軒、ガレッソホール／新潟市

参加者 約70名

○中四国制作者フォーラム in とくしま（中国・四国地区）

＜中国、四国の民放とNHK、計32局＞

日 時 平成22年10月16日（土）、17日（日）

場 所 阿波観光ホテル クリスタルパレス／徳島市

参加者 約70名

○九州放送映像祭&制作者フォーラム（九州・沖縄地区）

＜九州、沖縄の民放とNHK、計35局＞

日 時 平成22年11月13日（土）

場 所 MBCメディアホール／鹿児島市

参加者 約70名

イ 全国制作者フォーラム2011（東京）

過去2回開催した「若手制作者全国交流セミナー」を発展させ、「全国制作者フォーラム2011」として、全国の制作者にも参加を呼びかけ開催した結果、多数の参加者を得て活発な意見交換が行われた。

日 時 平成23年2月12日（土）

場 所 ホテルローズガーデン新宿／新宿区

参加者 約100名

○第1部 制作者フォーラム4地区のミニ番組優秀作品視聴

○第2部 講演、作品上映、パネルディスカッション

・「ドキュメンタリー」七つの作法

- 日笠昭彦氏（日本テレビ「NNNドキュメントプロデューサー」）
- ・『田舎のコンビニ～一軒の商店から見た過疎の4年間』（テレビ金沢）の視聴と制作話
- 中崎清栄氏（テレビ金沢ディレクター）、辻本昌平氏（テレビ金沢カメラマン）
- ・「現場からのテレビ論」 石橋冠氏（演出家）

#### （５）定期刊行物の刊行等

“放送文化基金賞”と“助成・援助”の受賞者、助成対象者一覧に加え、受賞者インタビューや研究内容の紹介などを中心とした広報誌「放送文化基金報（HBF）」No.73、No.74を2回（22年9月と23年4月）刊行した。

#### （６）ホームページの運営

事業活動全般について定期更新以外にも随時更新を行い、情報公開に努めた。また、新たに放送文化基金賞のこれまでの表彰対象すべてを検索できるデータベースを設置した（7月）。なお、公益法人移行に向けて、公表・公開が判りやすい様にデザインを再考するなど、平成23年4月1日リニューアルに向けて準備を進めた。（3月）

##### <日本語版内容>

助成・援助の決定・および成果の報告／申込書及び報告書類フォーマットファイル／助成・援助対象のデータベース／放送文化基金賞のデータベース／放送文化基金賞の受賞一覧・申込書フォーマットファイル・実施細則／各地区制作者フォーラムの開催予告と結果報告／広報印刷物の紹介／事業計画・収支予算／事業報告／財務諸表／役員・評議員・審査委員名簿 等  
アクセス件数 46,305件（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

##### <英語版内容>

助成・援助の募集案内、助成したプロジェクトの活動や成果の紹介、日本賞・ABU賞への参加について 等  
アクセス件数 5,469件（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

#### （７）個人情報の保護

当基金の保有する個人情報保護のため、安全管理対策や問い合わせ窓口の設置などを定めた個人情報保護方針および安全管理規程を策定し、個人情報保護方針をホームページで公開している。

## (8) 資産運用検討委員会

### ア 目 的

当基金では、「資産運用方針」に基づき資産運用を進めているが、特に債券市場の分析・機関投資家の動向等について幅広く情報の収集に努め、資産運用の専門性をより一層向上させるため、部外の専門家を含めた諮問的機関として「資産運用検討委員会」を年間2回開催した。

### イ 委 員

青木 昭憲 (大和住銀投信投資顧問(株)法人部長)  
柿沼 点 (大和住銀投信投資顧問(株)チーフエコノミスト)  
奥原 健夫 (大和住銀投信投資顧問(株)ファンド・マネージャー)  
松原 克美 (放送文化基金会計顧問・公認会計士)  
箕浦 康子 (放送文化基金監事)  
石田 研一 (放送文化基金監事・NHK経営企画局長)

### (幹 事)

谷村 啓 (放送文化基金専務理事)

### ウ 意見交換の主なテーマ

- ・ 日米を中心とした金利や為替等の経済政策や今後の見通し
- ・ 債券市場の動向等を踏まえた資産運用ならびに保有債券の分析等

## (9) 新公益法人移行に向けて

### ア 新公益法人移行検討委員会の設置

公益財団法人への円滑な移行を目指し、前年度に設置した検討委員会を年間2回(通算5回)開催した。

### (委員長)

塩野 宏 (放送文化基金理事)

### (委 員)

石田 研一 (NHK経営企画局長、放送文化基金監事)  
藤井 宏昭 (国際交流基金顧問、放送文化基金評議員)  
松原 克美 (公認会計士、放送文化基金会計顧問)  
柳瀬 康治 (丸の内中央法律事務所・弁護士)  
谷村 啓 (放送文化基金専務理事)

### (主な検討事項)

- ・ 公益財団法人放送文化基金定款(案)について
- ・ 公益財団法人放送文化基金諸規程(案)について
- ・ 公益認定等委員会事務局への事前相談内容について 等

イ 公益法人移行申請から認定まで

- 第 88 回評議員会（平成 22 年 7 月 22 日）で、最初の評議員の選任方法として、長谷部恭男氏（東京大学大学院法学政治学研究科教授）を委員長に、外部委員 2 人、内部委員 3 人の計 5 人からなる、「最初の評議員選定委員会を設置」することで、総務大臣への認可申請を行うことを了承。

（平成 22 年 9 月 9 日総務大臣より認可）

- ・ 同評議員会で、定款変更（案）と寄付行為の変更点を説明・了承。

- 最初の評議員選定委員会（平成 22 年 11 月 11 日）が開催され審議の結果、22 名を最初の評議員に選任。

- 第 89 回評議員会（平成 22 年 12 月 10 日）で、公益財団法人への移行認可申請に伴う「定款変更案」を議決。

（主な内容）

- ① 基金の目的を「助成及び表彰等の事業を行い、広く放送文化の発展向上に寄与する」と明記する
- ② 基金の目的を達成するため、助成、表彰、人材育成の支援事業等を実施する
- ③ 基本財産は、「基金の目的である事業を行うために不可欠なもの」として、評議員会で議決した財産と規定する
- ④ 附則に、移行後の理事・監事には現在の理事・監事を代表理事には現理事長をあてることなどを明記する。 等

- ・ 同評議員会で、公益財団法人への移行認可申請に伴い、関係する規則についての規程類の新設・改定を説明・了承。
- ・ 同評議員会で、公益財団法人への移行申請書類の準備が整ったので、12 月中に申請手続きを行うことを了承。

- 内閣府公益認定等委員会へ移行認定申請（平成 22 年 12 月 13 日）

- 内閣府公益認定等委員会より内閣総理大臣からの公益財団法人認定書受領（平成 23 年 3 月 25 日）

- 公益財団法人放送文化基金の登記完了（平成 23 年 4 月 1 日）

## Ⅱ 処務の概要

### (1) 役員、評議員等に関する事項

#### ア 役員の選任等

(ア) 理事全員については、平成23年3月31日で任期満了となるが、公益財団へ移行したときには、理事・監事共に現体制を引き継ぐことを第89回評議員会（平成22年12月10日）で議決した。

(イ) 第87回評議員会（平成22年6月4日）において、箕浦康子氏を監事に選任した。

（任期 平成22年6月5日から平成24年3月14日まで）  
磯井正義氏は平成22年6月4日をもって退任。

#### イ 評議員の委嘱等

(ア) 第329回理事会（平成22年7月15日）において、任期満了につき次のとおり再委嘱した。

井上 弘 氏 （TBSホールディングス会長）

服部 禮次郎氏 （セイコーホールディングス名誉会長）

平岩 弓枝 氏 （作家、劇作家）

藤村 志保 氏 （女優）

（任期 平成22年8月1日から平成24年7月31日まで）

(イ) 第332回理事会（平成22年12月3日）において、任期満了につき次のとおり再委嘱した。

井原 理代 氏 （日本放送協会経営委員会委員）

（任期 平成23年2月2日から平成25年2月1日まで）

なお、金澤 薫氏、小林 陽太郎氏、小丸 成洋氏は任期満了に伴い、平成23年2月1日付けで退任。

#### (ウ) 新法人移行後の最初の評議員

- ・ 第331回理事会（平成22年11月4日 持ち回り）において、法に定められた最初の評議員22名の候補者を「最初の評議員選定委員会」に推薦することを決め、「最初の評議員選定委員会」（平成22年11月11日）において22名を選定した。

- ・第89回評議員会（平成22年12月10日）において、「最初の評議員」22名を次のとおり選任した。

|        |                  |   |
|--------|------------------|---|
| 青木 保   | （青山学院大学大学院特任教授）  |   |
| 池辺 晋一郎 | （作曲家）            |   |
| 井原 理代  | （日本放送協会経営委員会委員）  |   |
| 小田島 雄志 | （東京大学名誉教授）       |   |
| 音 好宏   | （上智大学教授）         | 新 |
| 金田 新   | （日本放送協会専務理事）     |   |
| 五代 利矢子 | （評論家）            |   |
| 児玉 清   | （俳優）             |   |
| 今野 勉   | （演出家、脚本家）        | 新 |
| 高島 肇久  | （日本国際放送社長）       |   |
| 田中 優子  | （法政大学教授）         | 新 |
| 遠山 敦子  | （新国立劇場理事長）       |   |
| 長尾 真   | （国立国会図書館長）       | 新 |
| 中村 桂子  | （J T生命誌研究館館長）    |   |
| 西條 温   | （日本ケーブルテレビ連盟理事長） | 新 |
| 羽鳥 光俊  | （東京大学名誉教授）       |   |
| 濱田 純一  | （東京大学総長）         |   |
| 平岩 弓枝  | （作家、劇作家）         |   |
| 福田 俊男  | （日本民間放送連盟専務理事）   | 新 |
| 福地 茂雄  | （日本放送協会会長）       |   |
| 藤井 宏昭  | （国際交流基金顧問）       |   |
| 藤村 志保  | （女優）             |   |

（任期 平成23年4月1日から4年以内に終了する事業年度のうち、最終に関する定時評議員会の終結の時まで）

(2) 理事会および評議員会に関する事項

ア 理事会

| 開催年月日                                   | 主 な 議 事                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 22. 5. 27<br>(第 3 2 8 回)             | <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 2 1 年度事業報告書および財務諸表について</li> <li>第 3 6 回「放送文化基金賞」表彰対象について</li> </ul>                                                                                                              |
| 平成 22. 7. 15<br>(第 3 2 9 回)             | <ul style="list-style-type: none"> <li>最初の評議員の選任方法について</li> <li>新定款案について</li> </ul>                                                                                                                                        |
| 平成 22. 10. 7<br>(第 3 3 0 回)             | <ul style="list-style-type: none"> <li>定款変更案及び諸規程類の整備について</li> </ul>                                                                                                                                                       |
| 平成 22. 11. 14<br>(第 3 3 1 回)<br>持ち回り理事会 | <ul style="list-style-type: none"> <li>公益財団法人放送文化基金の最初の評議員選定委員会に推薦する候補者について</li> </ul>                                                                                                                                     |
| 平成 22. 12. 3<br>(第 3 3 2 回)             | <ul style="list-style-type: none"> <li>定款の変更案について</li> <li>諸規程類の整備について</li> <li>公益法人移行の為の申請書類について</li> <li>第 3 7 回放送文化基金賞「表彰実施細則」について</li> <li>平成 2 0 年度助成・援助プロジェクトの実施報告について</li> <li>「制作者フォーラム」の実施結果について（4 地区）</li> </ul> |
| 平成 22. 2. 1<br>(第 3 3 3 回)              | <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 2 2 年度助成・援助の実施について</li> <li>平成 2 3 年度予算編成の考え方について</li> </ul>                                                                                                                     |
| 平成 23. 3. 10<br>(第 3 3 4 回)             | <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 2 3 年度事業計画および収支予算の編成について</li> <li>「全国制作者フォーラム 2 0 1 1」の実施結果について</li> </ul>                                                                                                       |

イ 評議員会

| 開催年月日                      | 主 な 議 事                                                                                                |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 22. 6. 4<br>(第 8 7 回)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 2 1 年度事業報告書および財務諸表について</li> <li>役員の選任について</li> </ul>         |
| 平成 22. 7. 22<br>(第 8 8 回)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>最初の評議員の選任方法について</li> <li>新定款案について</li> </ul>                    |
| 平成 22. 12. 10<br>(第 8 9 回) | <ul style="list-style-type: none"> <li>新公益法人移行申請に伴う定款の変更案について</li> <li>新公益法人移行に伴う規程類の整備について</li> </ul> |
| 平成 23. 3. 18<br>(第 9 0 回)  | 第 9 0 回開催は東日本大震災の発生（3. 11）により中止                                                                        |